

はじめに

- ボケについての定義とパターンをまとめています。
- ここで紹介するものは調査・考察中のものです。他所での公開はお控えください。
- また意見や感想。異論や考察などありましたらいつかお話ししたいです。文責 オモロキ鎌田。

そもそもボケるとはなんだろう？似た形式の言葉遊びとの比較

クイズ

- 問題：東京スカイツリーの高さは何メートル？
- 正解：634m

なぜなぜ

- 問題：イスはイスでも、春にきれいな声でなくイスは？
- 正解：ウグイス

なぜかけ

- 問題設定：相撲
- 問題：昨今の相撲界とかけまして、花見の時期の上野公園とときます、その心は？
- 正解：せきとりが大変です

ボケる

- 問題：先生お弁当忘れました、どうすればいいですか？
- 正解ではないことが正解：しょうがない、隣に見せてもらえ。

写真で一言ボケる

- 問題設定：学生が困っている写真
- 問題：先生お弁当忘れました、どうすればいいですか？
- 正解ではないことが正解：しょうがない、隣に見せてもらえ。
- 参考：<https://bokete.jp/boke/88918155>

ボケるとは

- 問題に正解を言わず、間違えること。
- そして、その間違いが間違いだと気づける仕組みや構造を持っていること。

面白いボケとは

- 間違いと理解できて、かつ思いつかなかったもの。

面白くないボケとは

- 間違いと理解できないもの。ないしは、理解できるが思いついたもの。

※ちなみに...補足

- Googleアシスタントに「クイズだして」「なぞなぞだして」「なぞかけだして」「ボケて」と言うと答えてくれる
- Siriは上記3つはだしてくれるが、「ボケて」と言うと「そんなことおっしゃらないでください」と言って避ける

写真で一言ボケるとは

- 写真を見て、自らお題を設定し、ボケること
- なぞかけと同じで、問題設定は他人。この場合写真。それを見て問題と答えを考えて、さらにその答えを間違えるという構造。
- 問題を自分で作る、作問能力が必要となる
- お題は答えがいくつもある問題

お題の作り方(作問方法)

- 作問は普段あまりしないので、慣れてないとできない
- さらにクイズの策問と違うのでさらに難しい
- お題はクイズと違い、答えが一つではない。
- 良いお題は、答えに多様性が生まれ、答えを考えたくなる。

お題の元「木戸に立てかけし衣食住」

- 初対面の人やあまり親しくない人と会話する際の話題づくりに役立つとされ、記憶される「おまじない」の一種。
- 「季節（気象）」「道楽（趣味）」「ニュース」「旅」「知人」「家庭」「健康」「仕事」の頭文字を並べ、「衣食住」を付け加えた言葉。
- これにお題のデザインパターンを組み合わせると作問がしやすい

お題設定のデザインパターン

レベル1

- たけしメモ「こんな○○はいやだ」
- アホアホ○○のそれ「アホアホ銀行のATM、どんなATM？」
- ぐう畜・ぐう聖だとなんて言う？

レベル2

- 微妙ランキング「学校あるある第96位は？」
- オクシモロン「盗まない泥棒。どんな泥棒？」

レベル3

- 既存物語の拡張「かぐや姫は月に帰った後何してる？」
- プラスワン「野球で新たに10人目のポジションができた。どこ守ってる？」
- 不要機能「新車についていた不要な機能はなに？」

レベル4

- 境界ギリギリ「放送コードギリギリOKな芸名を教えてください。」
- 極端化「もったいないオバケが怒り狂ったもったいない事とは？」
- 有名入りアクション「池上彰が「何だその質問!？」と言ったどんな質問？」
- 何が起きる?「パソコンの全ボタンを一斉に押したら何が起きますか?」

参考：大喜利から学ぶ 問いのデザイン IPPONグランプリのお題の9パターン 安斎勇樹

お題の元 - 木戸に立てかけし衣食住 × たけしメモ

季節

- 夏といえば
- こんなライフセーバーは嫌だ
- こんなかき氷は嫌だ
- こんな梅雨は嫌だ

道楽

- スマホゲーム
- こんなアプリは嫌だ
- こんなコントローラーは嫌だ
- こんなゲームの主人公は嫌だ
- こんな開発会社は嫌だ

ニュース

- 大谷選手
- こんな大リーガーは嫌だ
- こんなバットは嫌だ
- こんな日本ハムは嫌だ
- こんな球団職員は嫌だ

旅

- 秩父旅行
- こんな秩父は嫌だ
- こんな山は嫌だ
- こんなハイキングは嫌だ
- こんな旅館は嫌だ
- こんな川遊びは嫌だ

天気

- 豪雨
- こんな嵐は嫌だ
- こんな雲は嫌だ
- こんな鳥は嫌だ
- こんな飛行機は嫌だ
- こんな気圧は嫌だ

家族

- 父親
- こんな父親は嫌だ
- こんな母親は嫌だ
- こんな家は嫌だ
- こんな家庭は嫌だ

健康

- ダイエット
- こんなダイエット法は嫌だ
- こんなお酢は嫌だ
- こんな運動は嫌だ
- こんな食事療法は嫌だ

仕事

- 現場仕事
- こんな工事現場は嫌だ
- こんなヘルメットは嫌だ
- こんな作業着は嫌だ
- こんなトラック運転手は嫌だ

衣類

- スカート
- こんなスカートは嫌だ
- こんなショッピングセンターは嫌だ
- こんな福屋の店員は嫌だ
- こんな109の店員は嫌だ
- こんな美大生は嫌だ

食事

- タコ焼き
- こんなたこ焼きは嫌だ
- こんな大阪は嫌だ
- こんな明石焼きは嫌だ
- こんなビールは嫌だ
- こんなタコは嫌だ

住居

- 賃貸マンション
- こんな賃貸マンションは嫌だ
- こんなドアは嫌だ
- こんな配達員は嫌だ
- こんなマンション管理士は嫌だ
- こんな引きこもりは嫌だ

ボケのデザインパターン(間違いを間違いだと気づける仕組みや構造)

自明ボケ

ルール

- 質問に答えが内包されている

具体例

- 「十二支って何体いましたっけ？」
- 「麦茶って何からできてるんでしたっけ？」
- 「アラジンの主人公の名前なんだっけ？」

解説

- 最もシンプルなボケと気づける構造。下記例は写真そのものに答えが内包されていることを聞いているボケ。

写真で一言ボケての例

- <https://bokete.jp/boke/86322448>
- なぜ我々を日本学術会議から外したのだ！

もの知らずボケ

ルール

- 当たり前を間違えて聞く

具体例

- 「ゴルフってボール蹴っていいんでしたっけ？」
- 「財布って盗むと捕まりましたっけ？」
- 「殴られると痛いですか？」

解説

- 年代や性別、趣味趣向で当たり前は異なるので、どこまでを常識として伝わるかの見極め必要。

写真で一言ボケての例

- <https://bokete.jp/boke/89871457>
 - 「痛い？痛い？」って聞いてくる
-

自虐ボケ

ルール

- 社会的に見て短所といえる自分の特徴を度を越えていう。

具体例

- 「アルタ前ですぐ気づくくらい不細工です」
- 「捨てる鉛筆くらい足が短いです」
- 「金がなさすぎて手首もまわらなくなってきました」

解説

- 相手が思っていると言いづらいことを、自らマイナス方面に度を超えていく。

写真で一言ボケての例

- <https://bokete.jp/boke/4721798>
 - Google earthに『ダメ社員』と入力したら、すごい勢いで自分に迫ってきた
-

自惚れボケ

ルール

- 社会的に見て長所といえる自分の特徴を度を越えて言う。

具体例

- 「ハンサムなので待ち合わせは顔を目印にしてください」
- 「足長いですね～」 「長過ぎて、駅まで徒歩5歩です。」
- 「お金持ちですね」 「そうなんですよ、哺乳類で一番金持ってます。」

解説

- 謙遜するのではなく、あり得ないレベルで肯定する。下の例は写真で度を超える例。

写真で一言ボケての例

- <https://bokete.jp/boke/2904274>
 - 先生、うちのせがれがその問題分かるってよ！
-

撞着ボケ

ルール

- 明確な矛盾が生じていることを言う。

具体例

- 「遅刻してすみません！ゆっくり急いでます！」
- 「あいつですか、明るくて暗い奴ですよ」
- 「きれいは汚い。汚いはきれい。」

解説

- 撞着語法は受け取り手に疑問を浮かばせるので奥深くなる。

写真で一言ボケての例

- <https://bokete.jp/boke/59030242>
 - 君のために歌います、聞いてください「for me」
-

地口ボケ

ルール

- 掛詞や韻を踏んだことを言う。いわゆる駄洒落。

具体例

- バスガイドを置いて、バスが移動。
- 急に鳩が飛んできて、はっとした
- 節子！その握りドロップやない！チェンジアップや！

解説

- 頭を使ってズレを埋めなくてよいので気軽に見られる。

写真で一言ボケての例

- <https://bokete.jp/boke/86023584>
 - シメのアーメン行くか
-

五感ずらしボケ

ルール

- 視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚の五感。メインでとらえる感覚を言わずに別の感覚のことを言う。

具体例

- 「さすが高いだけあってこのコーヒー良い音がしますね」
- 「この貝を耳に当てると海の匂いがします」
- 「新緑が舌に優しいですね」

解説

- 違う感覚器は正解が明確にわかるのでボケと気づきやすい。

写真で一言ボケての例

- <https://bokete.jp/boke/32770441>
- 「はだか...かさ...さかな...。」『そうじゃ。しりとりは身体で覚えるんじゃ。』

パラメータずらしボケ

ルール

- 温度、湿度、時間、速さ、距離、大きさ、重さ、明るさ、高さ、深さに変化を与える

具体例

- こんな学校は嫌だ、どんな学校？ 教室がサウナくらい暑い
- こんな学校は嫌だ、どんな学校？ 教室が目があげられないくらい眩しい
- こんな学校は嫌だ、どんな学校？ 教室の重力が5倍

解説

- 人為でパラメーターをいじることはできないので間違いだと気づきやすく、視点も持ちやすい

写真で一言ボケての例

- 『顔が薄くなるワイン』を手に入れてオバマ大統領に飲ませてみたらマジだったので、笑いが止まらないヒラリ。
- <https://bokete.jp/boke/35722925>

記憶フックずらしボケ

ルール

- 記憶を思い出すフックとなる事柄では明らかに違うことを結びつけること

具体例

- 「ところで、ゴリラで思い出したけど、君とこの奥さん元気？」
- 「そういえば、不正受検で思い出したけど、君とこのお子さん元気？」
- 「泥棒と言われて思い出したけど、今仕事何やってんの？」

解説

- 気を使わない親しい友人間などで、ネガティブ表現のあと使うことが多い。下の例は応用。

写真で一言ボケての例

- 同窓会でこれやらないと皆思い出してくれない
- <https://bokete.jp/boke/14255583>

あるある分岐ずらしボケ

ルール

- 特定のシチュエーションあるあるや物語の出来事を元に、そうなるであろう分岐とは別の分岐にずらす

具体例

- 「先生お弁当忘れましたどうすればいいですか？」「しょうがない隣に見せてもらえ」
- 「これ僕の気持ちです」と受け取ったラブレターを貴子は読まずに食べた
- おじいさんは山へしばかりに、おばあさんはクラブへ踊りにいきました

解説

- 特定のあるある同士を理解できる間違いするための組み合わせ方が少ないので難しい。

写真で一言ボケての例

- <https://bokete.jp/boke/58230379>
- ご覧ください ボクの席です

見立てずらしボケ

ルール

- 見た目や振る舞いから想像することの逆や無理なこと、明らかに違うことを言うこと。

具体例

- (顔面蒼白な顔で)は？おれ、全然テスト勉強してねーし → <https://bokete.jp/boke/42663952>
- (芝犬の尻尾の中に後光が差している)早くここをぐるんだ！元の時代に戻れなくなるぞ！ → <https://bokete.jp/boke/76793545>
- (家の前で立ち尽くす人)借金返せとか言われても...お父さんは留守なんです... → <https://bokete.jp/boke/47242377>

解説

- 適当な事柄を決め、その事柄が起こったときに写真に写っているものの反応とポジティブネガティブを逆にするとできやすい。
- 例えば上記の顔面蒼白写真→適当な事柄としてジェットコースター→は？おれ、ジェットコースター全然こわくねーし

写真で一言ボケての例

- <https://bokete.jp/boke/19888555>
 - なに？ジャムの蓋が開かない？そんな時は蓋を火で熱するといいよ。
-

見立て整えボケ

ルール

- 事柄やシーンの一部を、異なるシチュエーションの事柄やシーンの一部に見立て、言葉でシチュエーションをつなげ整えること。

具体例

- (地面に置かれたロージンバックから粉が舞う様子を見て) え！？温泉！？ → <https://bokete.jp/boke/55707916>
- (山なりに投げられたボールを見て) な、なんと、初雪だア！！ → <https://bokete.jp/boke/66410132>
- (ばあちゃんが手をあげているシーンをみて) コーナーキック → <https://bokete.jp/boke/88087873>

解説

- 写真版同音異義語のよう。同振る舞い異シチュエーション。一度見るともうそれにしか見えなくなる。

写真で一言ボケての例

- <https://bokete.jp/boke/90935026>
 - あ、袋いらないです
-

しをりスパイス

ルール

- かなしさやさみしさ、切なさを加えるとボケはぐっと親近感がわく
- 松尾芭蕉が提唱した「しをり」。にじみ出る哀愁、ペーソス。

写真で一言ボケての例

- <https://bokete.jp/boke/4833512>
- よりによってうち

ボケの分類について

目的

- 「ずらせない人のためにエンターテインメントが委縮していくのはごめんだ」ということ
- ただしできるだけ争いたくない、そのためにセグメント分けをする
- その人にとってアレルギーのない笑いが届けられる
- 自分が好きな笑いの分類と距離がわかる

前提

- ボケは「間違い」
- なのに人によって「正しい」は違う
- 本能的に正しいと感じることと、社会的に正しいと感じることがある
- 今回は本能的に正しいと感じることをベースにボケを分類する

フェーズ0「既知未知判定」

- 既知か未知かで面白さが変わる
- 見たことがあるボケかそうでないかを事前に知る必要がある

フェーズ1「活字辛抱強さ判定」

- ボケ自体の長さによって面白さが変わる
- そもそも文字を読むことに抵抗がある人はたくさんいる
- 短いボケしか消費できない人かどうか知る必要がある
- だいたい長くて15文字くらいまでのボケが多くが処理できる限界と思われる
- 2文字とかめっちゃ強い

フェーズ2「本能の六分類のポジネガ距離測定」※仮説

本能の六分類

- ジョナサンハイトが提唱した分類法
- 人は皆、本能的に正しいと思うことがある
- ケア・公平・自由・権威・忠誠・神聖の6分類
- ケアは弱者を守りたい、公平はバランスを取りたい、自由は束縛を嫌う、権威は立場を遵守したい、忠誠はコミュニティに貢献したい、神聖は精神的禁忌を感じることを。
- どれもを皆が持っているが、各項目の重要視しているものは異なる
- ちなみに、ケア・公平・自由を重んじるのが左派、権威・忠誠・神聖を重んじるのが右派と言われている。

本能の六分類に対しての間違え方、反対なこと

- ケア：あえてかわいそうなことをする
- 公平：あえて不公平、不平等、不条理なことをする
- 自由：あえて束縛、監禁、精神的な抑圧をあたえる
- 権威：あえて役に合わない、偉さに合わないことをする
- 忠誠：あえて不義理なことをする
- 神聖：あえて罰当たりなことをする

これにレベルを設ける、3段階

- お題：アホアホ高校の生徒が休み時間にしていることとは？
- ケア：あえてかわいそうなことをする
- ケアボケLV1：保護した野良犬をまた逃がしている
- ケアボケLV2：野良犬を池の水で洗ってあげる
- ケアボケLV3：最終的に野良犬に石をぶつけている
- 解説：アホアホ→意味のない、文脈において、犬にとってかわいそうのレベルを上げて、どこまで笑えるのかを判定する